

障がい者の就労場面において他者に教える行動がもたらす効果

The effect of teaching how to do a job to a peer by a person with disability

○小島 遼・中鹿直樹・乾 明紀・望月 昭

KOJIMA Ryo, NAKASHIKA Naoki, INUI Akinori, & MOCHIZUKI Akira

立命館大学

Ritsumeikan University

Key words: 学生ジョブコーチ、教え手学習効果、サービスラーニング

目的

これまで、ホテルでの清掃業務を対象に、学生ジョブコーチ(以下SJCと表記)が共同作業場の知的障害者の就労支援を行ってきた。そこでは、集会による当事者自身の課題分析表改善や当事者間での教え合いによる業務改善が行われてきた。これらの研究では、以前から清掃に参加していた者同士による相互支援が行われてきた。これらの流れを踏まえ、本研究では、「サービスラーニング」(サトウ, 2010)に焦点を当てた。

また、他者に教えることについて、Roscoe & Chi(2007)によれば、Tutoring(個別指導)研究において、学習者だけではなく教え手にも学習効果が見られ、これは、「教え手学習効果」と名付けられている。対象者自身が過去に習得した業務を、新人に教えることで、当該の業務を行う際にどのような効果があるのかを検討した。

方法

対象者 共同作業場で就労継続支援B型を利用するA(女性)とB(男性)であった。Aは、作業時に不満や不安を述べることが多く、作業が遅いと評価されていた。

業務内容 京町家を改造したホテルでの清掃業務であった。このうち、Aが苦手意識を持っており作業時間が長くなりがちで、ベッドメイキングを対象とした。

手続き 20XX年6月から、Bが清掃業務に参加し、AがBにベッドメイキングの方法を自由に教えた。SJCがその教える行動を課題分析表に基づいて記録、ビデオカメラで録画した。また、9月8日の作業開始前には、Bが1人でベッドメイキングを行うことができるようになるにはどうすれば良いかを、SJCと対象者で話し合った。8月4日と9日、10月1日と11日にはAのみがベッドメイキングを行い、ベッドメイキングを教える以前の作業時間と比較した。

Aが教えている際の発言を3つ(ポジティブ発言、ネガティブ発言、作業切り上げ発言)に分類し、その変化を記録した。

結果

Aのベッドメイキングの作業時間には大きな変化が見られなかった。しかし、図1に示したように、AはBに作業を教えている時であれば、他者への賞賛のようなポジティブな発言が多く見られた。ただし、同様にネガテ

ィブな発言の増加も見られた。また、Aが教えた結果、Bの自立遂行率の上昇も見られた。

考察

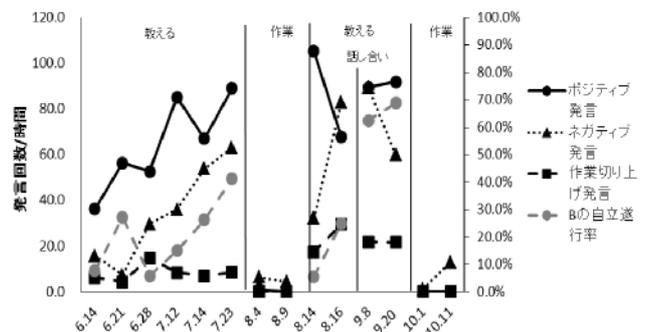


図1. ベッドメイキングにおけるAの発言内容の推移とBの自立遂行率

教える行動を当事者自身の当該の業務遂行の改善につなげる(いわゆるサービスラーニングの事態)ためには、単に教えることを経験するだけではなく、さらなる環境設定や介入が必要であったと言える。SJCは業務の記録や、Aの意見を聞きつつAのみのベッドメイキングの機会を設ける等の支援を行ったが、結果の可視化やAがBの作業時間短縮についても考えることなどが必要であったと考えられる。

当初は、不満や不安を述べることが多いと評されていたAであったが、他者に教えるという状況であれば、他者を賞賛する発言が多く見られた。このことからサービスラーニングの結果として、対象者の新たな一面を発見することができたと言える。

文献

Roscoe, R. D., & Chi, M. T. H. (2007). Understanding tutor learning: Knowledge-building and knowledge-telling in peer tutors' explanations and questions. *Review of Educational Research*, 77, 534-574.

サトウタツヤ (2010). モード2型学習としてのサービスラーニング—対人援助学との融合を目指して—. 望月昭・サトウタツヤ・中村正・武藤崇 (編). 『対人援助学の可能性—「助ける科学」の創造と展開』. 福村出版, 208-232.